

議事	テーマ	発言要旨	発言者
提言に向けての意見交換	「目指す姿1 新たな人の流れの創出」について	地域の人が減っていく中にあるのは、関係人口を増やすことが重要であるが、そのためには、まずは秋田県のよさを知ってもらう必要があるため、様々な形で秋田県をPRしてほしい。	能登祐子委員
		オンラインでつながった人が秋田県に興味を持ち、実際に秋田県に来てくれることもあるので、関係人口の創出に当たってはオンラインが有効であると実感している。	能登祐子委員
		秋田県民にとっては普通のことでも、県外の人にとっては感動につながることもあるので、そういったものを活用すれば、リピーターになってくれる可能性があるのではないかと。	能登祐子委員
		複数のWebサイトがあるが、これまでの成果を踏まえて、情報を絞るところは絞り、一方で、それぞれ濃い情報を掲載することで特徴の異なるサイトになり、利用しやすくなるのではないかと。	鈴木了委員
		結婚し、子どもが産まれると、ワーケーションの利用率が下がることもあるようだが、秋田の教育の強みを活かし、そのような層をターゲットにし、教育留学で家族みんなで秋田県に来てもらえるのではないかと。	鈴木了委員
		都会に比べると秋田県の給料は低いが、支出も少ないため、収支のバランスを見て、子育てしやすい秋田県に移住する人もいます。	加藤未希委員
		移住者が疎外感なく地域に馴染めるようなサポートがあれば、それが呼び水になり、「秋田県いいところだよ」という発信が増えるのではないかと。	原田美菜子委員
	「目指す姿2 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現」について	子育て支援イベント等の参加対象者を広げ、将来的に出産・子育てを考えている人にも参加してもらうことで、子育てのイメージが湧き、出産・子育てに前向きになれるのではないかと。	加藤未希委員
		子どもがいない人に、子育てを楽しんでいる人の姿を見せることで、出産・子育てに前向きになれるのではないかと。	加藤未希委員
		共働きで時間がない親が多いので、子どもを短時間でも預かる高齢者サークルの拠点が各地域にあれば、世代を超えた連携ができていいのではないかと。	能登祐子委員
		子どもを預けなければ参加できないような時間帯に集落の集まりがある場合など、対応に苦慮することがあるので、共働きの子育て世帯へ配慮した地域社会になってほしいと思っている。	鈴木了委員
		男性も育児に参加しようという風潮の中、土日祝日も仕事のため、家庭にいる時間が短く、育児参加が難しい人が多いので、土日祝日にしっかり休めるような労働環境にしていくべきではないかと。	鈴木了委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
提言に向けての意見交換	「目指す姿2 結婚・出産・子育ての希望がかなう社会の実現」について	出会いの場づくりに当たっては、気軽に出掛けていきたいと思えるようなイベントを企画するべきではないか。	原田美菜子委員
		生まれてくる子ども達はみんな同じ気持ちで迎えられべきであるため、一人で子育てを頑張っているシングルマザー等も応援する空気を作っていくことで、出産を前向きに考えられるのではないか。	原田美菜子委員
		地元を離れての子育ては孤独であるため、転勤で秋田県に来て子育てをしている人や、秋田県から県外へ出て子育てをしている人たちを支援したい。	原田美菜子委員
		20代の独身男性の4割がデートをしたことがないというニュースを見たが、出会いの場をつくるためには、若い男性がどのようなことを考えているのかヒアリングする必要があるのではないか。	竹下香織委員
		結婚に前向きになれない人が増えているのは、独身時代に仕事にやりがいを感じるほか、時代が豊かになり、趣味など楽しいことが多くなっているからではないか。	鈴木了委員
		単発での出会いイベントに対する支援は効率も悪く、行政がやるべきことなのか考える必要があるのではないか。単発のイベントよりは、日常の中で自然に出会える飲食店等の場所をつくるべきではないか。	鈴木了委員
		職場体験や授業の一環として、中学や高校といった早い時期から、幼稚園や保育園などで子ども達と触れ合う機会を作ること、将来の職業選択につながったり、自身の結婚・出産・子育てのイメージにつながるのではないか。	加藤未希委員
		毎日が家と職場の往復で終わり、出会いがないので、出会いを求めて県外へ転出するという話を聞くことがある。	加藤未希委員
		「出会いがない」という言葉を、もっと細かく分析できれば、具体的な行動につなげることができるのではないか。	鈴木了委員
		生き生き活動している人を増やすことが、出会いや結婚へつながるのではないか。	鈴木了委員
	「目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現」について	若者チャレンジ応援事業は、採用数も多く、若者にとって狙いがいいものとなっている。	鈴木了委員
		若者チャレンジ応援事業では、失敗事例の共通点を潰していくことで成功につなげることができると思うので、成功事例だけを取り上げるのではなく、失敗事例も隠さずに出してほしい。	鈴木了委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
提言に向けての意見交換	「目指す姿3 女性・若者が活躍できる社会の実現」について	起業に当たっては、少し上の世代で、経営者として成功している方と交流できる機会があったことが重要であった。そのおかげで、会社が今も続いていると思う。	鈴木了委員
		起業に当たっては、どこに何を聞けばいいのかわからないため、ワンストップで相談ができる窓口があればいいのではないか。	加藤未希委員
		行政への相談においては、年度によって担当者が替わり、一から説明が必要となることがあるので、継続して相談できる体制があれば若者もチャレンジしやすい。	加藤未希委員
		チャレンジをしている若者にとっては、気軽に話せる、少し前を行く先輩の存在が重要だと感じるので、そうした先輩のコミュニティにつなげる必要があるのではないか。	竹下香織委員
		地域で起業をサポートするための住民主導の相談窓口があれば、顔の見える間柄で人脈がどんどん増えていくのではないか。	能登祐子委員
		女性のリーダー育成に関して、一度都会に出て、また戻ってきた方がその必要性等を認識しているため、Aターンでお戻りいただくことがとても重要である。	能登祐子委員
		女性だから、男性だからということなく、みんなで協力し合うことが重要だと思っている。	能登祐子委員
	「目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築」について	地方の独居老人の生活が大変になっているため、共同で住める住宅をつくり、負担を分け合えばいいのではないか。	鈴木了委員
		地域の人が減っていく中で、残った人がまとまるためには、人が集まる拠点が必要だと思っている。	能登祐子委員
		住民自身が危機感を持って、衰退する自分たちの地域をなんとかしようと思うことが重要であり、住民が住民を巻き込んでいく力を充実させることができればいいと思っている。	能登祐子委員
		マルシェの開催を続けていることで、県内各地から幅広い年齢層の方が来てくれるようになったので、地域の賑わいを創出するためには、何かアクションを起こすことが重要だと実感している。	能登祐子委員
		地域の人が集まる拠点づくりに、地域の人自らが参加することで、自分たちの場所なんだという気持ちを持ってもらうことができるのではないか。	鈴木了委員

議事	テーマ	発言要旨	発言者
提言に向けての意見交換	「目指す姿4 変革する時代に対応した地域社会の構築」について	地域の人と顔を合わせることで会話が生まれたり、アイデアも得られたりするので、人が集まる場づくりが重要だと感じている。	鈴木了委員
		条例を定めるなどして、特色のあるまちづくりができるようにしてほしい。	鈴木了委員
		小さいコミュニティの活動であっても、情報を目にする機会を多く作れば、遠くからでも足を運ぶ人がいるのではないか。	原田美菜子委員
		NPO法人の活動と地域の活動をつなげてみるのもいいのではないか。	原田美菜子委員
		例えばスポーツなど、好きなことの活動を通じてコミュニティを広げていって、地域の活性化につなげられればいいのではないか。	加藤未希委員
	「目指す姿5 脱炭素の実現を目指す地域社会の形成」について	秋田県には豊かなすばらしい自然があるので、それを活用した次世代への環境の教育が大事だと思っている。	能登祐子委員
		リサイクル、リユース、リデュースの概念は社会的に浸透しているが、実践に当たっては、事例の紹介などにより、自分は何をできるのか選択肢を提供できればいいのではないか。	原田美菜子委員
		海のごみの削減に当たっては、漁師など海に関わる人の意識改革から始めて、そうした人が先頭に立ってPRすればわかりやすいのではないか。	鈴木了委員
		秋田県の自然環境のよさを県民が自覚し、自然と共生する県であることを、県内外にアピールできればいいと思っている。	原田美菜子委員
		洋上風力や地熱など、再生可能エネルギーの活用を進めていくためにも、県民がその必要性を理解したり、不安の解消が図られる場が必要なのではないか。	原田美菜子委員
	「目指す姿6 行政サービスの向上」について	デジタル化がかなりのスピードで進んでおり、恐怖を感じている高齢者が多いので、高齢者にもわかりやすいデジタル化を進めてほしい。	能登祐子委員
		セーフティネットを作るなどして、デジタル化に対応できない人であってもすべての制度を利用できるよう配慮してほしい。	原田美菜子委員